

後悔と報い

高田 優太

ここでは、兵庫県の教員採用試験合格を現役で掴んだ私が、後輩の皆さんにお伝えしたいことを執筆させて頂きました。少しでも教員を目指す皆さんの参考になれば幸いです。

1. 大学での5年間と教員採用試験の合格

教員採用試験に合格する1年半前、私は受け止めきれない現実と向き合おうとしていました。自分の進路について悩んでいた3回生の終わり頃。大学から来たのは留年しているため4回生には上がれないとの連絡でした。その連絡を聞いた瞬間色んな不安が次々と襲ってきて人生で一番気を落とし、後悔しました。しかし、自分の中で色々なことを整理し親に頭を下げた後は、吹っ切れたように自分の中で切り替えて過ごすことが出来ました。これまでで一番熱心に授業に参加して教員採用試験の勉強も進め、合格へと突き進みました。

私は留年が決まった後にもう一度、将来自分が何をしたいか考え直していました。そして、ある日部屋の掃除をしていると2分の1成人式(10歳)の時に、20歳になった自分へ宛てた手紙を見つけました。そこには、「今でも先生を目指していますか?」と書かれていました。自分が何か忘れかけていたことを思い出したような瞬間でした。まるでドラマのような展開ですが、こんな昔からの夢を簡単に諦めるわけにはいかないと思い、再度教員を目指し始めました。

合格後、小寄先生に合格の報告をした時に、「本当に良かった。この5年間が報われたね。」と声をかけてもらいました。もし教員を諦めて一般企業に就職していたら、ずっとわだかまりを抱えたままだったのではと思うと、あの時本当に踏みとどまって良かったなと思いました。きっとこれを読んでくださっている皆さんにも、大学生生活の4年間のどこかで人生の分岐点になるタイミングが来るかもしれません。その時に、親や友達など周りの人、昔の自分などを頼りにしてじっくり悩んで考え抜いて欲しいと思います。そうすれば、自分の本当の夢に近づけるかもしれません。

2. 学校現場で経験を積む大切さ

次に、大学生生活で様々なことを沢山経験して、教育実習や教員採用試験に役立てて欲しいということを伝えたいです。教育実習や教員採用試験は4回生に行うので、それまでにボランティアなどを経験する時間があります。ボランティアの具体例を挙げると、スクールサポーターや放課後運動遊び見守り支援ボランティアがあります。

私はずっと4年半の間、中学生を相手に集団塾でアルバイトをしていたので、スクールサポーターを経験できませんでしたが、周りの教職の同級生は半数以上が参加していました。塾のアルバイトでも授業感覚を養うことが出来ましたが、やはり感じるべきは本当の

学校現場の雰囲気です。教育実習の前にそれを体感しているか否かでは、実習の間の過ごし方や生徒との関わり方が非常に異なってきます。そして何より、教員採用試験の面接ではその経験が大きなアピールポイントになります。また、良くも悪くも自分が教員として向いているかどうかの判断材料にもなるはずです。スクールサポーターや放課後運動遊び見守り支援ボランティアはどちらも、交通費等の支給を頂けるため活動も続けやすいと思うので、是非学校ボランティアを経験されることをお勧めします。

3. 教員を目指す皆さんに伝えたいこと

ここまでは教職の先生方も仰っていたようなことも伝えてきましたが、ここからは私の個人的な経験から伝えたいことを述べていこうと思います。

まず、私が教職課程の授業を履修していて印象に残っている言葉があります。それは、中村健史先生の「少しでも合格する可能性を広げる努力をなさい。」という言葉です。これは様々なところで通じる言葉だと思いました。今からその具体的な例を3つ挙げたいと思います。

①教員採用試験の試験地を複数志望しておくこと

私は合格した兵庫県以外に、大阪府の豊能地区で大学推薦を頂き受験しました。一次試験では筆記試験が免除され、集団面接一本に絞って対策に集中することが出来ました。しかし結果は、推薦を頂いた豊能地区は一次試験で不合格となり、兵庫県は合格することが出来ました。この時、教員採用試験の難しさと何が起こるか分からない不安を感じました。対策の範囲が狭まるため1つの試験地で勝負することも出来ましたが、私は採用試験の雰囲気を掴み、場数を踏んで対策に活かす意味でも複数志願をしました。だから皆さんも、自分に合った自治体や受験方法を探して欲しいです。

②普段からの授業を怠らないこと

これは①の内容にも関係していますが、普段からの授業の単位を確実に取得することも非常に重要です。教育実習や教員採用試験、そして卒業論文などで忙しくなる4回生に単位をある程度取得していると非常に過ごしやすいためです。また、取得した単位の評定も単位と同じぐらい大切です。なぜなら、単位のS～Dの評定の割合などで大学推薦の対象に入るかどうか決まるからです。私は留年をしたものの、取得した単位の評定が良かったため豊能地区の推薦を頂くことが出来ました。だからこそ、大学推薦を少しでも考えている方は一つでも上の評定を目指しつつ、自分が気になる自治体の推薦基準を確認しておくことをお勧めします。

③教職教育サポート室に通うこと

私が最後に皆さんに伝えたいことは、積極的に教職教育サポート室に通ってほしいということです。サポート室には、教員採用試験に携わっていた先生や元小・中・高校教諭に元校長など、幅広い専門の先生方がいらっしゃいます。サポート室で私は、毎週月曜日の2限目の時間に古典の補習や、採用試験前は面接練習などをしていました。他にも、筆記

試験の対策としてプリントを度々頂くなど手厚くサポートして頂きました。教員を目指していると何かと不安要素が出てきがちになりますが、サポート室に行って少し相談するだけでも和らいだり解消したりします。

また、自分の力だけで勉強を進めていると、勉強のペースや内容を間違っていたり、友人から刺激も受けたりする機会も減ってしまいます。サポート室の企画にはポーアイキャンパスと合同の学力講座があり、他人の模擬授業から勉強になる所を盗んだり刺激を受けたりすることが出来ます。また、電子黒板を製作している企業の方から電子黒板のメリットデメリットを聞けたり、実際に使わせて頂いたりする機会や現場経験のある先輩方との座談会もありました。これらはすべて無料で受けることが出来たので本当に有難かったです。今まで一度も行ったことが無い人も、気軽に立ち寄って欲しいです。

これを読んでくださっている方のために、長々と伝えたいことを連ねてきましたが、これらがすべてではないので自分に合った勉強法などを見つけて、壁を乗り越えて行って欲しいです。正直、大変なことも多く心が折れそうになるタイミングもあるかもしれませんが、一人ではないのでそんな時こそ周りの人を頼って欲しいと思います。

教員という仕事は、子どもが成長する人生の大切な時期に関わることのできる素晴らしい仕事です。ふとした時に子どもたちの喜びや成長を感じられ励みになります。大学生活のどこかで自分の将来を左右する頑張り時が来ると思いますが、自分の夢に真っすぐと歩んでください。少しでもこの執筆が、皆さんの教職への気持ちを一押しできていれば嬉しいです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。みなさんの大学生活が、充実し有意義なものになることを願っております。